

開催日時	開催場所
平成29年9月20日(水) 18時00分 ~ 20時15分	こども支援センターげんき5階研修室3
出席者・講師など	
居宅介護支援事業所59事業所 69名	減災と男女共同参画 研修推進センター 浅野 幸子氏 足立区社会福祉協議会 阿部氏
次第	
<p>1 部会長 挨拶</p> <p>2 やっていますか？大規模災害対策 自助の基本と過酷な避難生活に備えた事業所としてのサービス提供者への責任と対応体制について考える</p> <p>3 事務連絡</p>	
議事	
<p>1.挨拶</p> <p>①千住ブロック多職種連携研修会に出席いただいた方、ありがとうございます。</p> <p>②部会発行証明書について 遅刻・早退しないようお願いします。</p> <p>③30年の改正では、収入によっては3割負担の方も。どのような影響があるか。 次回の部会は、平成30年4月からの総合事業について、行政の方をお呼びして、皆さんとグループワークする予定です。</p> <p>2.やっていますか？大規模災害対策</p> <p>★地域での助け合いがなぜ重要かについて考えましょう！</p> <p>自助→自分自身の身を守る。共助→地域や近隣の人がお互いに協力し合う。公助→行政や消防基幹等による救助</p> <p>例) 火事が起きたとき→「火事だ〜！！」とまず周りに知らせること。火が広がってしまう危険性を伝える。</p> <p>例) 震度6弱の地震がおきたとき →①避難所へ行く？ ②自宅で過ごす？ ③高齢者or障害者を避難所へ連れていく？</p> <p>例) 室内の安全対策(レイアウト決めているのは自分?)→自宅周りの安全性は 室内の落下物をよけて、逃げられるか？ ①避難準備(要配慮者がいる等)→②避難勧告(速やかに立ち退き)→③避難指示(極めて危険な状況・緊急に避難)</p> <p>例) 備蓄について考えましょう→1週間分用意。食料3日分は非常食で。残りは缶詰・レトルト食品で。水は一人1日3ℓを！</p> <p>・被災の実態について→東日本大震災・阪神淡路大震災・熊本地震から。 高齢者が多く亡くなった。関連死の半数が避難生活での疲労。</p> <p>・性別・立場別に異なる災害時の困難 →赤ちゃん・子供・高齢者・障害者・男性・女性・要介護者 集団生活になじまない人。床で寝る？</p> <p>・被災後1時間後にくるトイレパニック→水が流れない。トイレが詰まる。便の匂い。さてどうする？</p> <p>★助け合い・支援活動の好事例</p> <p>避難所では特に女性や高齢者は我慢しがち…。男性の避難所リーダーに相談。女性たちの話を聞いた。 託児・託老支援の重要性 専用スペース・簡易ベッド等</p> <p>★グループワーク 講義を聞いて、「普段から準備できること。」「各事業所で実践しようと思うこと。」 →各グループ発表。</p> <p>①ヘルメットや非常持ち出しの備蓄袋を準備している。災害時基本台帳はあるが更新できていないかも…。</p> <p>②災害後に、一人暮らしの利用者に訪問することになっている。普段から飲んでる薬等きちんと把握する。</p> <p>3.事務連絡</p> <p>次回10月23日(月) 午後6時から こども支援センター5階 テーマ:決まり次第、メールにてお知らせいたします。</p>	